

活動名 **カレーライス作り** **(野外炊飯)**

ねらい ○ カレーライス作り(カレー調理、飯ごう炊飯)の行程を通し、互いにかかわり合い、協力し合いながら完成させることで、みんなで作る喜びや達成感を味わうことができる。

条件

<p>場所 炊事棟 (雨天時は大屋根広場、ワークショップも有)</p> <p>対象 小学校高学年以上</p> <p>時期 春～秋</p>	<p>時間 2時間(天候、人数に応じて変更有)</p> <p>人数 200人程度 カレー かまど用特大鍋1つ30人分 ステンレス深鍋1つ5人分 ご飯 飯ごう1つ5人分</p> <p>天候 雨天時可(場所は要相談)</p>
---	---

提出物 **書類** 用具貸出票、食事等注文票

準備物

<p>貸出 □ドラム缶コンロまたはカセットコンロ 七輪、バーベキューコンロも利用可 □包丁 □まな板 □ピーラー □菜箸 □おたま □しゃもじ □鍋しき □鍋(かまど用特大鍋かステンレス深鍋) □飯ごう □水量ケージ □棒</p>	<p>団体準備 □食材 □炭またはカセットボンベ □うちわ □ハンドソープ □紙皿 □スプーン □がんこたわし □スポンジ □台所用洗剤 □ふきん □ごみ袋大小 □ペーパータオル</p> <p>個人準備 □軍手 □エプロン □三角巾 □ハンカチ □マスク</p>
--	---

展開

事前

- 1 場作り(活動場所の確認、道具の配置)
- 2 事前説明(活動内容や手順、注意点の確認)
- 3 食事場所の確認(炊事棟A前テーブル 6人掛け×21 炊事棟B前テーブル 6人掛け×21)
- 4 後片付けの仕方の確認(ごみの分別処理、貸し出し用具の返却、残飯拾い、テーブルと流しの復元)

活動 30人分をドラム缶コンロとかまど用特大鍋、飯ごうで調理する場合

流れ	カレー調理	飯ごう炊飯	まんたらめ貸出	団体準備	個人準備
1 炭おこし	①火の根元をあくおぎ、炭全体に火がまわるようにする。(まんたらめ職員の助言有)		□ドラム缶コンロ	□炭9kg □うちわ	□軍手
2 煮炊きの下準備	②ジャガイモ、ニンジン、タマネギの皮をむき、一口大に切る。	②飯ごうで米をといだあと、適量の水を加える。(水量が適切か水量ケージを使って確かめる。)	□包丁 □まな板 □ピーラー □飯ごう □水量ケージ □かまど用特大鍋	□食材 □ハンドソープ □ごみ袋小 (二重にする)	□エプロン □三角巾 □ハンカチ □マスク
3 煮炊き	③ ジャガイモとニンジンを煮る。 ④ たまねぎと肉を加えて煮る。 ⑤ ルーを加え、仕上げる。	③飯ごうに水と米を入れ、火にかける。 ④蓋が浮いてきたら蓋を棒で押さえる。 ⑤湯気がでなくなったら火から下ろす。	□おたま □菜箸 □棒	□うちわ	
4 食事	⑥皿に盛り付け、いただく。		□しゃもじ □鍋しき	□紙皿 □スプーン	

事後 後片付け

流れ	団体準備
1 飯ごう、鍋等の貸し出し用具を返却する。 ・汚れをしっかりと落とす。 ・水気をペーパータオルで拭き取る。 ・職員の点検を受け、返却する。	□台所用洗剤 □がんこたわし □スポンジ □ペーパータオル
2 流しや三角コーンの残飯、地面に落ちた残飯を確実に拾う。	□ごみ袋大
3 使用したテーブル、流しまわりをふく。	□ふきん

安全管理

□ケガ対応	包丁	飯ごう 鍋
□火傷対応	ドラム缶コンロ(カセットコンロ)	
□食物アレルギー対応		

配慮事項

- ・食材調達や炭おこし、炭の片付けは、当センター職員に要相談。
- ・30人分を1つのドラム缶コンロで調理する場合、炭は9Kg程度で1時間ぐらいの燃焼を確保する。
- ・食材の鍋へのこげ付きを防ぐため、カレーは炒めずに煮込む。
- ・カレーの水分量は、鍋に入れた具材が水にかくれる位にして煮込む。
- ・飯ごうの汚れをとりやすいように、ご飯を盛り付けた後、飯ごうに水を入れ、火にかけておく。

野外カレーライス作りの様子



ドラム缶コンロに炭火をおこします。



野菜の皮むきやカットは炊事棟か各テーブルで行います。



米とぎ。1つの飯ごうで最大5人分炊くことができます。



飯ごうのフタに研磨洗剤で番号を書き、区別します。



特大鍋1つ、飯ごう6つで30人分の調理が可能です。



煮炊きの間に洗い物をしています。



煮えて浮き上がってくるふたを、棒で押さえます。



たっぷりできました。おこげもおいしそうです。



カセットコンロを用いてのカレー作りも可能です。



雨天時は大屋根広場で煮炊きできます。七輪の炭火も利用できます。



バーベキューコンロを用いて、班ごとの炊飯も可能です。



ごみは、燃やせるごみと生ごみに分別します。